

平成 30 年度 卒業証書授与式
式 辞

比較的、暖かな日が多かった冬が終わり、光あふれる春が始まろうとしています。この佳き日に、清水賢一同窓会長様を始め、ご来賓の皆様、ならびに多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、平成 30 年度長野県篠ノ井高等学校卒業授与式を挙行できますことは、私ども教職員一同にとって、大変大きな喜びです。

全日制 233 名、定時制 6 名の皆さんは、本校の全ての課程を終了し、卒業証書を授与されました。心からお祝いの言葉を申し上げます。卒業おめでとう。また、手塩にかけて育ててこられました保護者の皆様には、いろいろなご苦勞があったかと存じますが、本日このような形で実を結びましたこと、誠におめでとうございませう。

今日は、本校にとっても平成時代最後の卒業式です。振り返れば、中国の首都北京では、民主化を求める抗議運動を政府が鎮圧しようとして天安門事件が起き、ヨーロッパでは、ベルリンの壁が破壊されソ連の崩壊が始まるという、高揚感と緊張感が入り混じった国際情勢の中で平成の時代が始まりました。平成の前半には、グローバル化と経済の進歩は連動するものと捉えられ、世界の変化も恒久的なものだと信じられていました。しかし、最後の 10 年になると、それらは疑わしくなり始め、ついには国際金融危機が起きました。更にトランプ政権が誕生すると、世界的にポピュリズムとナショナリズムが台頭し、自由主義経済の繁栄や、国連中心の安全外交政策を前提とする論調は勢いを失っています。

日本の教育においては、女子高校生の四年制大学への進学率が大幅に伸び、30 年前には 15%(男子 38%)だったのが、平成 29 年には、49%(男子 55%)に上昇し、何と 3 倍以上になりました。このため、近い将来、女性が指導的な役職に就く割合が急速に高くなると、民間のシンクタンクは予想しています。実は、日本の経済と社会の閉塞感を解決する方策が、ここにあるのではないかと私自身は期待しています。

さて、新しい時代は新しい技術と共にやって来ます。既に、都市部の生活インフラになっているクラウドを中心とした IoT や AI はもちろん、ビッグデータやロボットによる第四次産業革命が加速し、シンギュラリティの時が迫って来ました。また、アンドロイドの開発で世界の先端を行く日本では、ロボットが社会性を持つ日も近づいています。世界的ベストセラー『なぜ世界は存在しないのか』の著者であり、ボン大学教授のマルクス・ガブリエル氏は、12 月に来日した折に、「先の世界大戦で特攻隊などの『非人間化』を実行した日本が、アンドロイドを平和的に使う方向で、倫理観を共有する努力をして来たかは疑わしい。」という懸念を表明しました。私も全く同感です。今こそ、私たちは世界に向けて誠実に答えられるだけの、確かな哲学とヒューマニズムを持たなければならないと思います。

前例のない未来に向かい、皆さんには組織や社会に頼る生き方でなく、あなた自身の主体的で内発的な生き方を大切に、あなたにとっての豊かさを追求して欲しいと願います。先ずは、周りの目や声を気にせず自分の考えを貫けるよう、しっかりした論理的な思考力を磨き、世界に発信する英語力を身につけ、願わくは教養としての哲学を学んで欲しいと思います。人生は選択の連続であり、この先困難も多いでしょうが、その度に、あなた自身の可能性を広げる方向に舵を切り、豊かな未来への選択を積み重ねて下さい。

結びに、皆さんの今後の人生に幸多かれと祈念し、式辞といたします。

平成 31 年 3 月 2 日

長野県篠ノ井高等学校長 岩田 学